

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
第 11 回国際シンポジウム&研究発表 実施報告
医療サービスを必要とする子どもたちの
豊かな LIFE CHANCE を創造するために
ホスピタル・プレイをさらに発展させよう

1. 全体概要

(1) 開催日時

平成 31 年 1 月 26 日（土）10 時 00 分～16 時 45 分

(2) 開催場所

静岡県立大学短期大学部

講堂、101 講義室、102 講義室、205 講義室、及び 207 講義室

(3) 開催概要

本学における HPS 養成事業を振り返り、現在の到達地点を確認するための場として国際シンポジウムと HPS による臨床研究発表を開催し、全国各地より 168 名の参加があった。

国際シンポジウムでは、脳神経外科医・ファッションデザイナーの Dr. まあや氏による基調講演「夢をもって生きること・ネガティブ思考でも前を向くために」に始まり、ラウンドテーブルでは、「子どもたちが誰も取り残されない社会を実現するために」をテーマに子どもたちが社会とつながるチカラ、遊びについて考え、病児・障害児の現状、課題を紹介するとともに、今後の取り組みについて貴重な意見交換の場となった。

また、午後から行われた HPS による臨床研究発表では、口頭 11 件、ポスター 18 件の研究発表が集まり、ホスピタル・プレイ導入に関する取り組み、治癒的な遊びや新しい遊びの開発を発信し、今日の日本における HPS の幅広い活動実態とその有用性、現存する課題を示すものとなった。

2. 当日プログラムの概要

(1) 10 : 00～10 : 05 開会挨拶

鬼頭 宏（静岡県立大学短期大学部 学長）

本シンポジウムの開催に際し、講演者・参加者ならびにご支援とご協力をいただいている皆様に謝辞を述べるとともに本学での HPS 養成教育事業の経過および本シンポジウムのプログラムについての話しがあり、開会挨拶とした。

(2) 10 : 05～10 : 15

松平 千佳（静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS 養成事業責任者）

本事業に対してご支援とご協力をいただいている各位に対する謝辞があった。

また、本学の HPS 養成教育事業の経過と共に、NPO 法人ホスピタル・プレイ協会の活動報告として、昨年各種機関との連携をはかり、開発された医療体験を楽しさに変える木製メディカルキット「メディカルプレイキット」について紹介をし、今後の展望についても述べた。

(3) 10 : 15～11 : 15 基調講演

Dr.まあや（Dr.まあやデザイン研究所 脳神経外科医・ファッションデザイナー）

本講演では、「夢を持って生きること～ネガティブ思考でも前を向くために～」と題し、ネガティブ思考を自認する Dr.まあや氏が生きづらさを抱えながらも、できるだけ楽しく自分らしく生きていくための考え方や方法について、自らの経験を交えながら述べた。

(4) 11 : 15～12 : 15 ラウンドテーブル

テーマ：『子どもたち誰もが取り残されない社会を実現するために』

《コーディネーター》

松平千佳（静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS 養成事業責任者）

《パネリスト》

志水信彦（阪南中央病院 小児科部長）

「一般小児科診療からみた子どもの“LIFE CHANCE”」

佐野公一（つばさ静岡 相談員）

「医療的ケア児等への相談支援を通して」

瀬戸脇正勝（静岡県障害者就労研究会、前・静岡南部特別支援学校校長）

「豊かな Life Chance を創造するために」

本ラウンドテーブルでは、各パネリストが所属する現場での支援の取り組み方とその活動を紹介し、現状と抱える課題、そして今後の支援のあり方についてテーマに沿って展望を述べた。

(5) 12 : 15～12 : 20 アナウンス

(6) 12 : 20～13 : 10 昼休み

(7) 13 : 10～15 : 10 HPS による臨床研究発表 口頭発表（11 件）

発表一覧参照

(8) 15 : 10～15 : 20 移動・休憩

(9) 15:20～16:20 HPSによる臨床研究発表 ポスター発表(18件)

発表一覧参照

(10) 16:20～16:30 移動・休憩

(11) 16:30～16:45 まとめ・閉会挨拶

立花 明彦(静岡県立大学短期大学部 部長)

立花部長より本日の講演内容についての感想と本学における今後の養成教育事業について述べ、閉会の挨拶とした。

3. 当日の様子

開会挨拶



主催者挨拶



基調講演



ラウンドテーブル



口頭発表の様子



ポスター発表の様子



▶口頭発表一覧

口頭発表一覧に変更がありましたので、お詫びして訂正いたします。

教育棟 1F/102 講義室（司会：江原勝幸）	時間	教育棟 2F/205 講義室（司会：森 裕樹）
感謝状贈呈式	13:10	
A—1 CLS がみた日本の HPS -日本での研修と今後の連携について- 代 表：Courtney Moreland（UC Santa Barbara Extension Instructor）	13:20	B—1 障害児・者の歯科治療における HPS の関わりと今後の課題 代表：中山陽子（NPO 法人ホスピタル・プレイ協会）
A—2 術前プレイ・プレパレーション「オペラチャンツァー」のその後と課題-子どもたちの心の声を聴くために- 代表：野川智絵（あいち小児保健医療総合センター）	13:40	B—2 在宅医療を受ける子どもを持つ母親の「子どもの遊びについて」-HPS による遊び支援とアンケート調査の結果から- 代表：西尾恵美（大阪発達総合療育センター）
A—3 多職種連携そしてチーム医療の実現に向けて-子どもたちとご家族の笑顔のために- 代表：野瀬美砂子（横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター）	14:00	B—3 腎生検におけるプレイ・プレパレーションの実践報告-ソフィーちゃんの腎生検- 代表：池田祐子（あいち小児保健医療総合センター）
A—4 ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる在宅遊び支援-遊びがもたらす力。つながる。変化する。- 代表：杉渕早苗（NPO 法人ホスピタル・プレイ協会）	14:20	B—4 思春期ルームの活用と活動の報告 代表：土屋民子（東京都立小児総合医療センター）
平成 31 年度 HPS 養成週末講座の募集について 代表：加藤恵美（静岡県立大学短期大学部）	14:40	B—5 遊びからみえてきた子どもの安静の認識と理解 代表：鈴木のどか（静岡県立こども病院成育支援室）
終 了	15:00	B—6 コミュニケーション・ネットワークと専門性の発揮 - 遊び支援・連携のすれ違いとその克服 - 代表：森 裕樹（東京都健康長寿医療センター研究所／NPO 法人ホスピタル・プレイ協会）
	15:20	終了

▶ポスター発表一覧

※偶数番号…15：30～16：10（40'）に本人による説明を行います。

※奇数番号…15：50～16：30（40'）に本人による説明を行います。

教育棟 1F/104 講義室

	発表タイトル	代表	代表者所属
P1	術前プレイ・プレパレーションの導入と改善に関する取り組み	倉 愛子	石川県立中央病院
P2	「モクモク 吸入」楽しいな！	山沢妙子	医療法人社団永生会 南多摩病院 小児科病棟
P3	採血環境改善のための取り組み	西川恵利	日本大学病院 看護師
P4	こどもホスピス病棟におけるHPS活動報告	萱野いづみ	淀川キリスト教病院
P5	多職種で行う子ども中心の採血を目指して	荒木 遥	福井大学医学部附属病院小児病棟
P6	HPS 週末講座での学びと活動報告	鷺巣恵理	なし
P7	小児科内科病棟における HPS の活動と課題	雨宮幸帆	船橋市立医療センター
P8	HPS の資格取得後の変化とこれからの活動について	稲森香織	宮崎大学医学部附属病院小児病棟
P9	児童養護施設での HPS 活動	中川めぐみ	なし
P10	子どもにやさしい歯科医療の提供を目指して —ホスピタルプレイを導入した児童発達支援事業所での 歯科健診の取り組み—	川端 薫	静岡市障害者歯科保健センター

教育棟 2F/207 講義室

	発表タイトル	代表	代表者所属
P11	遊びを楽しみ、遊びの力を学ぶ大学サークル設立と HPS 活動	工藤恭子	東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科
P12	HPS 資格取得後の活動報告	黒瀬恵子	なし
P13	私の HPS 活動～成功しても失敗しても一歩一歩～	前田梨恵	東京慈恵会医科大学附属病院
P14	活動報告 HPS養成講座を終えて	金岡 好	あいち小児保健医療総合センター
P15	養成講座修了後の活動報告 —講座での学び、そして HPS として現在取り組んでいる活動について—	村田麻耶	あいち小児保健医療総合センター
P16	服薬支援における活動報告	三枝美和	静岡県立こども病院
P17	HPS 養成講座での学びによる変化と取り組みについて	鎌田由美	国立循環器病研究センター病院 小児病棟
P18	小児科・新生児センターにおける HPS の取り組み	山田芙美子	順天堂大学静岡病院